



望

と

勇

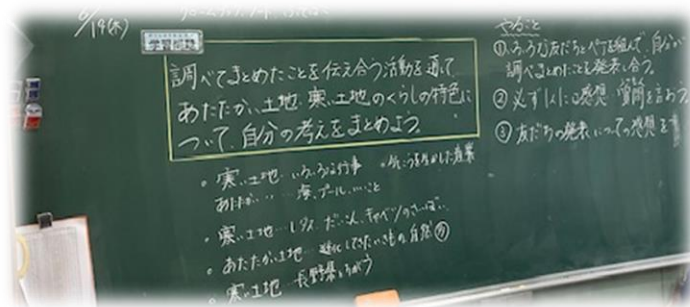
令和7年6月27日

No.16

文責 田中 誠

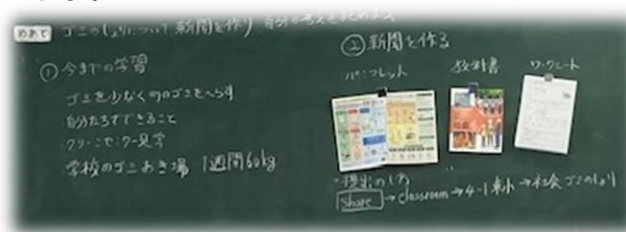
オープン授業

東小学校には、授業の充実を目指した授業研究チームがあります。今年度は「探究の学び」「個別最適」「協働」を研究の柱に据え、3つのチームに分かれて授業実践を重ねています。



6月は各チームの授業公開（＝オープン授業）が多く行われ、互いに学び合う機会となりました。仲間の授業を見る機会は本当に貴重で、多くの示唆を得ることができます。公開する先生にとっても、参観者の意見をフィードバックしてもらうことで、大きな学びの機会となります。長野県では伝統的に「子どもの事実で語る」ことを大切にしてきました。授業者の一挙手一投足を追うのではなく、子どもの学びの姿をとらえ、そこから支援の妥当性や今後の方向性を考え、語り合います。全国でも珍しい授業研究のスタイルで、高い評価を得ています。もちろん東小学校もこのスタイルです。

先日参観した社会の授業は、暖かい気候の地域と涼しい気候の地域の特徴をそれぞれ調べ、違いをまとめたプレゼンテーションを友だちと共有し合う場面でした。参観していた私のところにもやってきて、沖縄県と北海道の「気候」「住宅」「食」の違いについて教えてくれました。その場にやってきた友だちも交え、質問したり感想を伝えたりし、二人にとってよい時間となったようです。話す言葉の強さや流暢さから調べたことへの自信がうかがえ、この日までに充実した調べ学習ができていたんだなと感じました。子どもの学びの姿をとらえるときに、発言や学習カードの記述の他にまなざしや体の向き、言葉の強さ、動きのはやさ等も参考にします。子どもたちの真剣さや意欲の強さを感じられ、驚きとともにうれしさがこみ上げてきます。授業をしているときは、参観者のようにゆとりをもって子どもの姿をとらえるのはなかなか難しいのですが、仲間の授業を見たときに学びをとらえる「目」を鍛え、自分の授業に生かします。



授業には正解がなく、常に学び続けなくてはなりません。互いに授業を見合っ
て高め合っていく本校の先生方の姿勢に、
頼もしさを感じています。